

令和5年度 公立学校教員採用候補者選考試験問題

保健体育

1 / 9 枚中

注意 答はすべて解答用紙の解答欄に記入すること。

※本問題では、以下のようにする。

- ・中学校学習指導要領（平成29年告示）「第2章 第7節 保健体育」を「中学校学習指導要領」、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編を「中学校解説」とする。
- ・高等学校学習指導要領（平成30年告示）「第2章 第6節 保健体育」を「高等学校学習指導要領」、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編・体育編を「高等学校解説」とする。

第1問題 中学校解説及び高等学校解説について、次の指示に従い、I、IIのいずれかを答えよ。

- ・中学校受験者は、I [中学校解説に関する問題] を解答すること。
- ・高等学校受験者は、II [高等学校解説に関する問題] を解答すること。
- ・特別支援学校受験者は、I [中学校解説に関する問題] または、II [高等学校解説に関する問題] のいずれかを選択して解答すること。

I [中学校解説に関する問題]

次の文章は、「中学校解説 第3章 指導計画の作成と内容の取扱い 1 指導計画の作成」の一部である。ア～

カにあてはまる語句又は数字を答えよ。

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(2) 授業時数の配当については、次のとおり扱うこと。

ア 保健分野の授業時数は、3学年間でア単位時間程度配当すること。

イ (略)

ウ (略)

エ (略)

(略)

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(4) 体育分野におけるスポーツとのイな関わり方や保健分野の指導については、具体的な体験を伴う学習の工夫を行うよう留意すること。

(略)

体育分野においては、体育分野で学習した成果を、ウの活動や学校や地域の実態等に応じた活動などの学校教育活動に生かすことができるよう、本解説第2章の第2節 [体育分野] の3 (4) に示された「エとの関わりの深いスキー、スケートや水辺活動など」の指導を積極的に取り入れるとともに、年間指導計画において、学習の時期や順序を検討するなど、結果として体験活動の充実に資することに留意することが必要である。

(略)

なお、オリンピック・パラリンピックに関する指導の充実を図る観点から、パラリンピック競技大会で実施されている種目などのオスポーツを体験するなどの工夫も考えられる。

(略)

また、このような体験活動を効果的に実施していくためには、その意義や効果について家庭や地域と共有し、連携・協働することが重要である。さらに、これらの学習を展開するに当たっては、学習の内容と生徒の発達の段階に応じてカを十分に行わなければならない。

II [高等学校解説に関する問題]

次の文章は、「高等学校解説 第3章 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い 第1節 指導計画作成上の配慮事項 3 「体育」及び「保健」(2) 障害のある生徒などへの指導」の一部である。[ア]～[カ]にあてはまる語を答えよ。

(2) 障害のある生徒などへの指導

(6) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、[ア]的に行うこと。

(略)

指導に際しては、学校や地域の実態に応じて、次のような配慮の例が考えられる。

- ・見えにくさのため活動に制限がある場合には、不安を軽減したり安全に実施したりすることができるよう、活動場所や動きを事前に確認したり、仲間同士で声を掛け合う方法を事前に決めたり、[イ]が出る用具を使用したりするなどの配慮をする。
- ・身体の動きに制約があり、活動に制限がある場合には、生徒の実情に応じて仲間と積極的に活動できるよう、用具やルールの変更を行ったり、それらの変更について仲間と話し合う活動を行ったり、必要に応じて[ウ]用具の活用を図ったりするなどの配慮をする。
- ・リズムやタイミングに合わせて動くことや複雑な動きをすること、ボールや用具の操作等が難しい場合には、動きを理解したり、自ら積極的に動いたりすることができるよう、動きを[エ]的又は言語情報に変更したり簡素化したりして提示する、動かす体の部位を意識させる、操作が易しい用具の使用や用具の大きさを工夫したりするなどの配慮をする。
- ・試合や記録測定、発表などの状況の変化への対応が求められる学習活動への参加が難しい場合には、生徒の実情に応じて状況の変化に対応できるようにするために、挑戦することを認め合う[オ]づくりに配慮したり、ルールの弾力化や場面設定の簡略化を図ったりするなどの配慮をする。

(略)

- ・勝ち負けや記録にこだわり過ぎて、感情をコントロールすることが難しい場合には、状況に応じて感情がコントロールできるよう、事前に活動の[カ]を立てたり、勝ったときや負けたとき等の感情の表し方について確認したりするなどの配慮をする。

(略)

第2問題 「中学校解説 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容（体育分野）2 内容 A 体づくり運動」及び「高等学校解説 第1部 保健体育編 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各科目の目標及び内容「体育」3 内容 A 体づくり運動」について、次の問に答えよ。ただし、問3については、次の指示に従い、I、IIのいずれかを答えよ。

- ・中学校受験者は、I [中学校解説に関する問題] を解答すること。
- ・高等学校受験者は、II [高等学校解説に関する問題] を解答すること。
- ・特別支援学校受験者は、I [中学校解説に関する問題] または、II [高等学校解説に関する問題] のいずれかを選択して解答すること。

問1 中学校「第3学年」及び高等学校「入学年次」の「(1) 知識及び運動」に示されている「運動を継続する意義」では、生徒がどのようなことを理解できるようになるとよいか、記せ。

問2 中学校「第3学年」及び高等学校「入学年次」の「(1) 知識及び運動」に示されている「運動の原則」では、生徒がどのようなことを理解できるようになるとよいか、記せ。

問3 次の文章は「内容の取扱い」の一部である。□ア～□ウにあてはまる語または数字を答えよ。

I [中学校解説に関する問題]

(エ) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する観点から、必要な知識及び運動の定着を図る学習とともに、生徒の□アを深めるために発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を追究し、生徒の□イを捉えて指導を改善していくことが大切である。

その際、互いに教え合う時間を確保するなどの工夫をするとともに、指導事項の精選を図ったり、運動観察のポイントを明確にしたり、□ウを効果的に活用するなどして、体を動かす機会を適切に確保することが大切である。

II [高等学校解説に関する問題]

(ウ) (1)のイの「実生活に生かす運動の計画」では、運動を組み合わせ、健康の保持増進や□アのとれた体力の向上を図るための運動の計画を立てて取り組むこととしているが、学校教育活動全体や実生活で生かすことができるよう□イ的に取り組める簡単な運動の組合せを取り上げるなど指導方法の工夫を図ることに留意することとしている。

また、学習する時間が限られていることや個人のねらいが異なることから、同じねらいをもった□ウと運動の組み合わせ方を検討したり、実践した運動の計画例を発表したりして自己のねらいと異なる運動の組み立て方についても情報を共有できるようにするなどの工夫を図るようにする。

第3問題 陸上競技の指導について、次の問に答えよ。

問1 陸上競技の短距離走におけるコーナーの走り方で、外に放り出されてしまいそうな生徒にどのようなアドバイスをするとよいか、記せ。

問2 陸上競技の長距離走での脚の運びにおいて、ブレーキがかからないようにするために生徒にどのようなアドバイスをするとよいか、記せ。

問3 次の文章は、中学校解説及び高等学校解説の「C 陸上競技」における中学校第3学年及び高等学校入学年次の「(3) 学びに向かう力、人間性等」の一部である。□ア～□エにあてはまる語を答えよ。

一人一人の違いに応じた□アや挑戦を大切にしようとするとは、体力や□イの程度、性別や障害の有無等に応じて、□ウの状況に合った実現可能な□アの設定や挑戦を大切にしようすることを示している。そのため、様々な違いを超えてスポーツを楽しむことができるよう配慮することで、スポーツのよりよい□エづくりに貢献すること、違いに応じた配慮の仕方があることなどを理解し、取り組めるようにする。

第4問題 中学校解説【第3学年】及び高等学校解説に示されている「水泳の事故防止に関する心得」を二つ記せ。

第5問題 器械運動について、次の問に答えよ。

問1 次の文章は、「学校体育実技指導資料 第10集 器械運動指導の手引」(平成27年12月27日 文部科学省)に示されている、倒立グループの技の指導の要点である。□ア～□カにあてはまる語句をA～Kから選び、記号で答えよ。

倒立というと、両手で立つことが一般的にイメージされます。両手で立ち、しかも、バランスを保持して静止することを、はじめから学習するのは困難です。頭倒立がよく「□ア」と呼ばれるように、□イや補助倒立などの倒立技は、両手よりも支える場所を□ウいます。つまり、指導に当たっては、支える場所が多い倒立から少ない倒立へと発展させていくことが考えられます。

また、立位から逆位へ一気に姿勢を変えるのは、バランスがとりにくい課題です。したがって、□イをしようとして、壁に腰をおつけて崩れてしまったり、怖くて脚を振り上げられず、逆位になる前に戻ってきたりしてしまいます。このような児童生徒に対して、腕立て正面支持隊から補助者が脚を持って倒立をさせるという方法が考えられます。ただし、足を持ってもらう人は、体に力を入れて□エ姿勢にしておかないと、うまく脚を上げてもらえません。逆位への姿勢変化を緩やかに行うということでは、「□オ」も同じ意味で捉えることができます。この課題は、補助なしで一人で練習することができますが、足を高い位置に上げながら、手を壁に近づけていくことは、児童生徒にとって□カが大きく、倒立になれないことがあります。

(略)

- A 背支持倒立 B 減らして C 腕 D 三点倒立 E 真っ直ぐな F 増やして
G 壁倒立 H 負荷 I 壁登り逆立ち J 斜めの K 変動

問2 「学校体育実技指導資料 第10集 器械運動指導の手引」(平成27年12月27日 文部科学省)に示されている、跳び箱運動を安全に指導するための配慮事項について、次の(1)、(2)に答えよ。

(1) 配慮事項の一つである「跳び箱運動で要求される動きや感覚を高めておくこと」について、具体的に説明せよ。

(2) 配慮事項の一つである「安全な場づくり」について、具体的に説明せよ。

第6問題 球技について、次の問に答えよ。

問1 ベースボール型におけるソフトボールについて、次の(1)、(2)に答えよ。

(1) 片足を踏み出すと同時に腕を風車のように大きく1回転させて投球する方法を、A～Cから選び、記号で答えよ。

- A ウインドミルモーション
- B スリングショットモーション
- C スタンダードモーション

(2) 内野ゴロの捕球の仕方について、技術ポイントを簡潔に記せ。

問2 ネット型における卓球とバドミントンについて、次の(1)～(4)に答えよ。

(1) 卓球のストロークで、図1のようにボールに強い前進回転を与える打法を何とよいか、答えよ。



図1

(2) 図2は卓球の主審の合図を表している。得点(ポイント)の合図を、A～Cから選び、記号で答えよ。

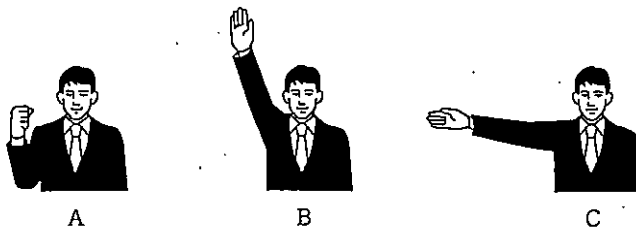


図2

(3) バドミントンで、図3のようにネットを越えてすぐに落下するように飛んでいくフライトを何とよいか、答えよ。

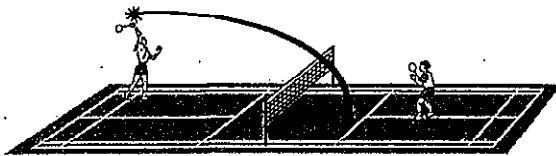


図3

(4) バドミントンで、スマッシュが強く打てない生徒に対して、技術的にどのようなアドバイスをするとよいか、簡潔に記せ。

第7問題 武道について、次の問に答えよ。

問1 「中学校解説 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔体育分野〕2 内容 F 武道〔第3学年〕」及び「高等学校解説 第1部 保健体育編 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各科目の目標及び内容〔体育〕3 内容 F 武道〔入学年次〕」に示された、(1)と(2)の資質・能力について例示として正しいものをA～Fから二つずつ選び、記号で答えよ。

(1) 思考力、判断力、表現力等

- A 相手を尊重するなどの伝統的な行動をする場面で、よりよい所作について、自己や仲間の活動を振り返ること。
- B 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えること。
- C 見取り稽古などから、自己や仲間の動きを分析して、良い点や修正点を指摘すること。
- D 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えること。
- E 選択した運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選ぶこと。
- F 課題解決の過程を踏まえて、自己や仲間の新たな課題を発見すること。

(2) 学びに向かう力、人間性等

- A 武道の学習に主体的に取り組もうとすること。
- B 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事。
- C 武道の学習に積極的に取り組もうとすること。
- D 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること。
- E 役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること。
- F 武道の学習に自主的に取り組もうとすること。

問2 図4、図5は柔道の連絡技を表している。連絡されている二つの技は何か、前後の順に答えよ。

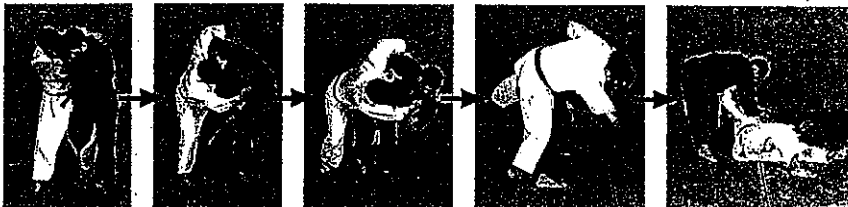


図4



図5

第8問題 「中学校解説 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容（体育分野）2 内容 G ダンス [第3学年]」及び「高等学校解説 第1部 保健体育編 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各科目の目標及び内容「体育」3 内容 G ダンス [入学年次]」の技能 ア 創作ダンスについて、次の問に答えよ。

問1 <表したいテーマと題材や動きの例示>として示されているテーマの一つである「対極の動きの連続」とは、どのようなことを示しているか、具体的な動きを挙げながら答えよ。

問2 問1の「対極の動きの連続」以外にどのようなテーマが示されているか、一つ答えよ。

第9問題 中学校解説及び高等学校解説について、次の指示に従い、I、IIのいずれかを答えよ。

- ・中学校受験者は、I [中学校解説に関する問題] を解答すること。
- ・高等学校受験者は、II [高等学校解説に関する問題] を解答すること。
- ・特別支援学校受験者は、I [中学校解説に関する問題] または、II [高等学校解説に関する問題] のいずれかを選択して解答すること。

I [中学校解説に関する問題]

中学校第3学年で取り扱う「体育理論」の内容として正しいものを、A～Fから三つ選び、記号で答えよ。

- A スポーツの歴史的発展と多様な変化
- B 現代生活におけるスポーツの文化的意義
- C スポーツの経済的効果と高潔さ
- D 国際的なスポーツ大会などが果たす文化的な意義や役割
- E 運動やスポーツが社会性の発達に及ぼす効果
- F 人々を結びつけるスポーツの文化的働き

II [高等学校解説に関する問題]

高等学校で取り扱う「体育理論」の内容として正しいものを、A～Fから三つ選び、記号で答えよ。

- A 豊かなスポーツライフの設計の仕方
- B スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展
- C 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方
- D 運動やスポーツの多様性
- E 運動やスポーツの効果的な学習の仕方
- F 文化としてのスポーツの意義

第10問題 中学校解説及び高等学校解説について、次の指示に従い、I、IIのいずれかを答えよ。

- ・中学校受験者は、I [中学校解説に関する問題] を解答すること。
- ・高等学校受験者は、II [高等学校解説に関する問題] を解答すること。
- ・特別支援学校受験者は、I [中学校解説に関する問題] または、II [高等学校解説に関する問題] のいずれかを選択して解答すること。

I. [中学校解説に関する問題]

次の文章は、「中学校解説 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各分野の目標及び内容〔保健分野〕. 2 内容 (4) 健康と環境」の一部である。ア～オにあてはまる語を答えよ。

(4) 健康と環境について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康と環境について理解を深めること。

(7) 身体には、環境に対してある程度までアがあること。身体のアを超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。

(イ) 飲料水や空気は、健康と密接な関わりがあること。また、飲料水や空気を衛生的に保つには、イに適合するよう管理する必要があること。

(ウ) 人間の生活によって生じた廃棄物は、環境のウに十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的にエする必要があること。

イ 健康と環境に関するオから課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それら表現すること。

II [高等学校解説に関する問題]

次の文章は、「高等学校解説 第1部 保健体育編 第2章 保健体育科の目標及び内容 第2節 各科目の目標及び内容「保健」3 内容(1) 現代社会と健康」の一部である。[ア]～[オ]にあてはまる語を答えよ。

(オ) 精神疾患の予防と回復

⑦ 精神疾患の特徴

精神疾患は、精神機能の基盤となる[ア]的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることを理解できるようにする。

また、うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などを適宜取り上げ、誰もが罹患しうること、[イ]で発症する疾患が多いこと、適切な対処により回復し生活の質の向上が可能であることなどを理解できるようにする。

その際、アルコール、薬物などの物質への依存症に加えて、[ウ]等への過剰な参加は習慣化すると嗜癖行動になる危険性があり、日常生活にも悪影響を及ぼすことに触れるようにする。

⑧ 精神疾患への対処

精神疾患の予防と回復には、身体の健康と同じく、適切な運動、食事、栄養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクゼーションの方法で[エ]を緩和することなどが重要であることを理解できるようにする。

また、心身の不調時には、不安、抑うつ、焦燥、[オ]などの精神活動の変化が、通常時より強く、持続的に生じること、心身の不調の早期発見と治療や支援の早期の開始によって回復可能性が高まることを理解できるようにする。その際、自殺の背景にはうつ病をはじめとする精神疾患が存在することもあることを理解し、できるだけ早期に専門家に援助を求めることが有効であることにも触れるようにする。

さらに、人々が精神疾患について正しく理解するとともに、専門家への相談や早期の治療などを受けやすい社会環境を整えることが重要であること、偏見や差別の対象ではないことなどを理解できるようにする。

第11問題 熱中症について、次の問に答えよ。

問1 「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き」(令和3年5月 環境省・文部科学省)の内容について、次の(1)～(3)に答えよ。

- (1) 熱中症の発症には、「環境」及び「からだ」と「行動」の条件が複雑に関係しているが、各条件について、熱中症を引き起こす要因の具体例を一つずつ記せ。
- (2) 熱中症の重病度分類において、医療機関での診察が必要となる「中等症」と判断される症状を、A～Fから二つ選び、記号で答えよ。
- A 生あくび B 大量の発汗 C 倦怠感 D 頭痛 E たちくらみ F けいれん発作
- (3) 熱中症予防運動指針において、「運動は原則中止」とされている暑さ指数(WBGT)は何℃以上か、答えよ。

問2 熱中症の応急手当(処置)として具体的な方法を二つ記せ。ただし、医療機関での診察が必要とされる症状が認められない場合の手当(処置)を答えること。